

Press Release

報道関係各位

2016年11月22日
株式会社トヨタマーケティングジャパン

スポーティかつアクティブな新型マークXで
巨大アート作品「風神・雷神図」の制作に挑む！

「MARK X Artistic Performance」

Webムービー公開

日本を代表する3人のトップドライバーが共演！走りの軌跡がアート作品に

トヨタ自動車株式会社は11月22日(火)、マイナーチェンジした新型マークXを発売します。

マークXは、1968年のコロナ マークII 発売以来、歴代マークIIが育み、そして磨き上げてきた資質を受け継ぎ、2004年に新たな高級FRセダンとしてデビュー。今回のマイナーチェンジでは、洗練された格好よさと遊び心を両立した「大人のスポーティセダン」として、フロントを中心にデザインを一新し、基本性能の熟成と共に安全装備の充実化を図っています。



この新型マークXの発売を記念し、スポーティな走行性能を最大限にアピールするWebムービー「MARK X Artistic Performance」を11月22日(火)からYouTubeで公開いたします。車載照明でボディを照らした新型マークXを筆に見立て、広大な敷地を駆け巡りながら巨大な風神・雷神を描く様子を記録したこの動画は、ひとつのアートとして成立する見ごたえのある作品に仕上がっています。3台の新型マークXを操るドライバーには脇阪寿一さん、石浦宏明さん、大嶋和也さんを起用。日本を代表するトップレーシングドライバーが正確な走りで光の線を生み出し、徐々に完成していく作品の制作過程、そしてその芸術性の高さをお楽しみいただくことができます。

今まで誰も挑戦しなかったことを条件とし、コンピュータグラフィック全盛の時代に、ライトで車体を照らしながら光の線を重ねるといったアナログな手法を取り入れて完成した“ド迫力”の本アート作品を、ぜひご覧ください。

■Webムービー概要

タイトル 『MARK X Artistic Performance』

動画URL <http://toyota.jp/markx/cp/artistic-performance/>

公開日時 2016年11月22日(火) 13:30

STORY

漆黒の闇を駆ける新型マークXが光の線を描き、残像で風神・雷神図を完成させた

車体を照らす新型マークXと全身黒づくめのドライバーが登場し、暗闇の中をヘッドライトも点灯せず走行するシーンから始まるストーリー。スタント走行によるパフォーマンスにも見えますが、描き出される複雑な光の軌跡には規則性がなく、何らかの目的を持って走っていることが窺えます。

時に速く、時にジワリと緩急をつけたドライビングが繰り返される中で、モニターの中に浮かび上がってくる風神と雷神の姿。ラストはドライバーが手に持ったライトを掲げ、2体に魂のこもった目を入れ完成します。クルマで線を描くという高難度な制作もさることながら、その完成度の高さには驚くばかりです。



暗闇から現れた新型マークXはルーフを照らす特殊な照明を装備。レーシングドライバーの脇阪寿一さん、石浦宏明さん、大嶋和也さんが入念なミーティングを行い、ヘッドライトを消してスタートします。



光を残像として記録しながら、3台の新型マークXがボディカラーを活かし赤、青、白の線を描きます。複雑に絡む線は車速や光量を調整し強弱を演出しながら筆のタッチを再現。モニターに光の線が重なります。



黒いキャンバスに描き出されていく巨大な光のイラスト。手書きのようにソフトな筆運びは、クルマを走らせているとは思えない柔軟さ。新型マークXの性能とドライバーの技術が融合し、いよいよ完成を迎えます。



降車したドライバーがハンドライトを夜空に向けてと、2体に目が入りました。豊かな表情、躍動感に満ちたポーズはまさにアートと呼べるクオリティです。

動画の見どころ①

「未知への挑戦」が発想の原点

新型マークXのスポーティな動力性能と技術進化をトップドライバーが表現

日本画は世界が認める匠の技として知られますが、世界に向かって誇れる技術とセンス、そしてよりスポーティな性能を持って生まれ変わった新型マークXは、日本画に登場する機会が多い「風神・雷神」のイメージに一致しました。

コンピュータグラフィック全盛の時代に、デジタルでありながらもアナログな手法を取り入れ、今まで誰も成しえなかった未知の挑戦であることを条件とし、さらにスポーティな新型マークXの魅力が伝わる方法として考案されたのが、ライトで車体を照らしながら光の線を重ねるというアート制作でした。

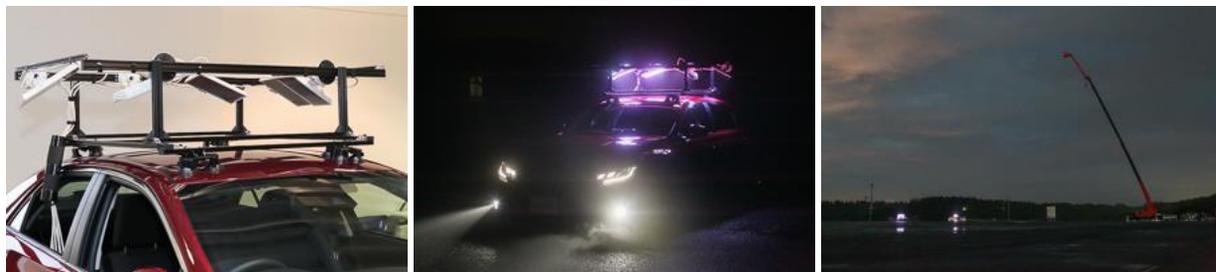
ボディ剛性を増し、ダイレクト感の強いハンドリングが可能となった新型マークXの動力性能を最大限に表現するため、マークXの最小回転半径を基準として綿密な計算のもとデザインを決定。完成には高度なドライビングを必要としたため、トップクラスのレーシングドライバーを起用しました。

動画の見どころ②

風神・雷神を描いた3色のラインは、新型マークXのボディを照らす光の残像

制作に使用した3台の新型マークXは赤、青、白とそれぞれ異なるカラーを担当しラインを描きますが、実はルーフに搭載した照明はすべて同じ白色LEDを使用しており、風神・雷神を描く3色のラインはダークレッドマイカメタリック、トゥルーブルーマイカメタリック、ホワイトパールクリスタルシャインのボディカラーを照らし出したものです。

制作は閉鎖されたスペースを使用。陽が落ちて暗くなる時刻を待ち、クレーンを利用し高所から俯瞰で撮影を行いました。



動画の見どころ③

緻密に描いたラインをコンピュータ上で重ねてフィニッシュ

太いラインや細いラインの使い分け、そして筆で描いたような「はらい」や「とめ」の表現は試行錯誤を繰り返して、走行スピードや光量を調整する方法にたどり着きました。

ダイナミックなラインはスピードを出しながら、繊細なパートは繊細な動きと緩急をつけることで、クルマを使いながらも人間の手で描く温かみのある作品を完成させています。

長いラインや短いラインを繰り返し走り、すべてのラインを重ねたモニターの中では、正確さの中に大胆さを併せ持つ魅力的な作品が完成していました。



動画の見どころ④

寸分の狂いもない芸術的な走行を実現した3人のトップドライバー

3台の新型マークXを操るドライバーには、日本を代表するレーシングドライバーとして知られる脇阪寿一さん、石浦宏明さん、大嶋和也さんを起用しました。

クルマの色を絵の具に見立て、クルマの動きで筆運びを再現する。絵画に負けないそんなアート制作を行うには、超一流のドライビングテクニックを必要としたためです。

本業では速く走ることが最重要課題となるレーシングドライバーですが、その技術を正確なハンドリングに集中してのアート制作はもちろん3人とも初めてのチャレンジ。細かく指示される速度や曲がるタイミングはスピードメーターを見るのではなく、頭の中でリズムを刻みながらタイミングを合わせたそうです。

ドライビングスーツやブーツ、そしてヘルメットからグローブまで、身に着けるウェアはすべて黒で統一しているのは、暗闇でボディカラーを照らしながら行うアート制作でカメラに写り込まないように配慮したものの。しかしスーツは同じ黒でありながらもパーツによって素材を変更するなど凝ったデザインが採用されています。各ドライバーの体型に合わせて作られており、着心地も好評でした。



脇阪寿一さん

「マークXはレースでドライブしたこともあり、今回のオファーに深い縁を感じています。運転の仕方でのラインの表現が変わるというチャレンジは興味深い反面、『はらい』や『とめ』の表現が難しく高度な技術が必要でした。きっと同じ絵を描き直すことはできないでしょう。貴重な体験でした」



石浦宏明さん

「光を残して描くという試みはすごいと思いました。またこうしたアート制作に自分が加わることに喜びを覚え、楽しく携わることができました。後輪を駆動する新型マークXは狙ったラインをトレースしやすく、コントロールしやすいクルマ。LEDで飾られたヘッドライトなどデザインも好みです」



大嶋和也さん

「暗闇の中でヘッドライトを消して走行するのは、レースに匹敵するほどの集中力が必要でした。ボンネットの少し先しか見えない中で指定されたラインをトレースするのが難しく常に緊張感をもったの運転でした。新型マークXはボディ剛性が上がり、本気の走りにも期待が持てそうです」

新型マークXをバーチャルで体感し自分を表現できる

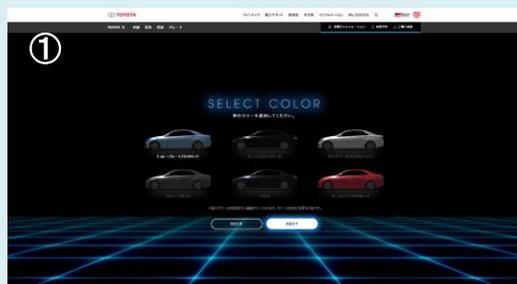
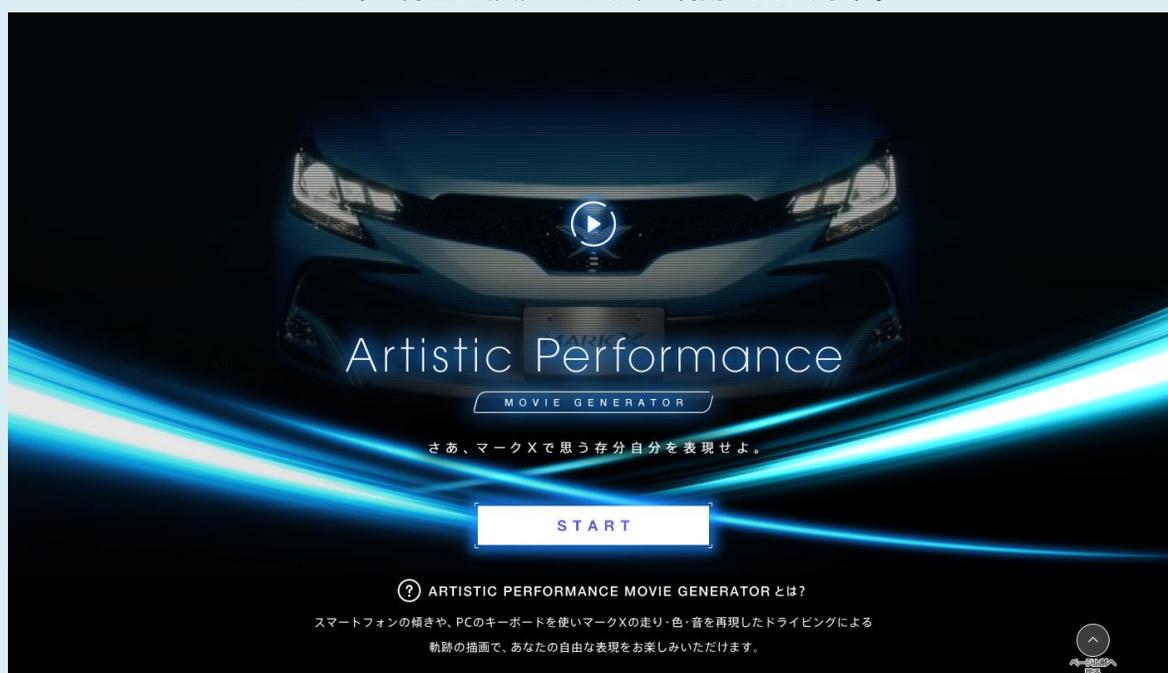
「Artistic Performance MOVIE GENERATOR」

11/22公開の特設サイト「Artistic Performance」では、脇阪さん、石浦さん、大嶋さんが登場する「Artistic Performance」Movieが見れるだけでなく、あなたが一流ドライバーになり代わって、新型マークXの走りや色、音など全てで自己表現ができる「Artistic Performance MOVIE GENERATOR」を用意しております。音楽や車体の色を自由に選び、スマートフォンのジャイロセンサーやパソコンのキーボードを使って新型マークXで「Artistic Performance」に挑戦する様子を、オリジナルのMOVIEとして生成可能です。つくった映像はSNSでシェアすることができます。ぜひお試しください。

「Artistic Performance MOVIE GENERATOR」

<http://toyota.jp/markx/cp/artistic-performance/>

2016年11月22日（火）13:30よりご利用いただけます。



「Artistic Performance Movie Generator」操作画面

- ① クルマのカラーや音楽を選択します。
- ② クルマを操作し、ライトのオンオフにより軌跡を描きます。

※完成した画像は、SNSでシェアすることができます。

STAFF

クリエイティブディレクター	中尾 孝年
プランナー	多々良 樹
アートディレクター	茗荷 恭平/小路 翼/下村 雄飛
クリエイティブプロデューサー	前田 貴臣/三浦 克矢
営業	黄 章浩/関 健太郎/堀切 勇志
プロデューサー	白石 道彦/小原 章史(ピクト)
プロダクションマネージャー	森田 祐介/佐々木 直人/久岡 信也/安達 香月(ピクト)
ディレクター	志賀 匠 (キャビア)
カメラマン	櫻井 敬(ピクト)
ライティングディレクター	山崎 公彦(ピクト)
スチールカメラオペレーター	塩崎 宏明
データマネージャー	相馬 正彦
カメラカー	新井 敬太 (エススリー)
特殊機材	宗特機
カーケア	鈴木 勝善 (オルゴー)
車輛	正木 克明 (DOD)
リモートライトペインティングシステム	aircord
美術	水谷 陽一(クラフト)
スタイリスト	山田 直樹
オフラインエディター	田中 正志
オンラインエディター	荒木 一宅(デジタルエッグ)
カラリスト	亀井 嘉朗(ソニーPCL)
MA/ミキサー	佐藤 雅之(デジタルエッグ)
作曲	佐々木 亨